

育成委員会

遠藤 孝雄

育成委員会 委員長
横浜国立大学工学部



鉄鋼協会は設立以来(大正4年)、鉄鋼科学技術の育成活動を最重要課題として掲げて推進して来ました。今日、世界に冠たる鉄鋼科学技術王国として日本は君臨するに至りましたが、協会が果たしてきた役割の大きさは衆目の認めるところであります。しかし、鉄鋼業や鉄鋼協会を取り巻く環境は大きな変貌を遂げ、従来とは異なる視点で教育・育成活動を捉えなければならない時期に至っています。

最も大きな変化は、若年層が持つ鉄鋼業に対するイメージの変化であり、鉄鋼業における人材確保の将来を思うとき、これは憂慮すべき状態であります。思うに、目標が明確で、「追いつけ、追い越せ」の時代においては、若者にとっても鉄鋼業界は魅力的で、かつ刺激的な世界でありましたが、頂点に立って技術的にもブレイクスルーと対峙するとき、往時の興奮が冷めたとしても不思議ではありません。

今大切なことは、21世紀においても鉄鋼業が文明を支える基盤産業であるか否かを根源的に問い、「21世紀においても生活空間を地上に、地下に、海底に、そして宇宙に広げ、快適な交通運輸を保証する構造材料は鉄鋼を除いて他にない」という強い認識を私たち自身が持つこと、そして若者に対してこの信念を発信すること、鉄鋼技術の蓄積を基にして鉄鋼業が関連分野を広げていること、これらの事を分かりやすく社会に知らせることが大切になってきています。

育成委員会は既存の委員会等を統合し、新たな委員会を加えて平成3年8月に発足しました。育成活動の対象が従来よりも広がっているのは以上のような社会情勢を踏まえているからであります。

育成委員会は本年度で第2期を迎え、第1期に蒔いた種に実を結ばせ、更に新たな種を植えようとしています。現在、下部組織として6つの小委員会と3つの分科会が活動しており、以下に簡単な紹介をします。

企画小委員会〔小委員長：永田和宏氏(東工大)〕は育成にかかわる企画発信基地としての役割を担っています。現在、「外国人博士研究員奨学制度準備WG」を発足させ、世界的な若手研究者の育成と大学及び国研における鉄鋼関連の研究を活性化させる企画を進めております。また、「創立80周年記念事業小委員会」との関係を保ちながら、21世紀における鉄のルネッサンスを見つめる懸賞論文の募集やその他の企画について検討しています。

知的財小委員会〔小委員長：増子 昇氏(東大)〕は鉄鋼協会に蓄積された知的材を歴史的に展望した学術論文叢書を平成6年から順次発行する予定です。この学術論文叢書では執筆者の個人名が付いており、鉄鋼協会としては初めての試みであります。現在、この学術論文叢書を創立80周年記念事業とすることを提案しています。

技術講座小委員会〔小委員長：河部義邦氏(金材技研)〕は西山記念技術講座と白石記念講座の企画立案を担当しています。西山記念技術講座は、鉄鋼に関する研究・技術・設備等から年3テーマを選び、会員の知識・技量を深める事を目的としており、本年度のテーマは(1)摩耗、摩擦、潤滑技術、(2)鉄鋼業における計測制御技術、(3)ステンレス鋼製造と利用に関する最近の進歩と将来であります。白石記念講座は、鉄鋼の進歩に貢献する関連分野の各種技術に関するものの中からテーマを選び会員の知識向上を図る事を目的にした講座で、本年度のテーマは(1)地球環境・エネルギー問題の現状と将来、(2)大深度地下利用技術の現状と将来であります。

鉄鋼工学セミナー小委員会〔小委員長：徳永洋一氏(九大)〕は大学卒業後5～10年経った技術者・研究者を対象にした鉄鋼製造の基礎理論の講義とケーススタディを中心にした集中的学習会を企画立案しています。

鉄鋼工学アドバンストセミナー小委員会〔小委員長：阿部光延氏(新日鉄)〕は育成委員会の第2期に発足した委員会、10～15年の実務経験を有する技術者を対象にし、鉄鋼工学セミナーよりも高度なところを狙った少数精鋭のコースで、本年12月からスタートします。

日向方斉学術振興交付金選考分科会〔主査：萬谷志郎氏(秋田高専)〕は毎年10人の若手研究者を選んで国際会議に出席する費用の助成をしています。

学生見学会実行分科会〔主査：竹村 裕氏(大同)〕は理工系学生に最新の技術と研究を理解してもらうために製鉄所・研究所の見学会を実施しています。

ものづくり教育を考える会実行分科会〔主査：井口泰孝氏(東北大)〕は理科教育に携わる高校教諭にもものづくり教育の重要性を認識して頂き、鉄鋼業が科学と技術を有機的に結びつけた産業である事を理解してもらうための企画で、研究所及び製鉄所の見学会と懇談会を開催しています。

連続鑄造技術史編纂小委員会〔小委員長：郡司好喜氏(レオテック)〕は日本で発達した連続鑄造技術史の編纂を企画しています。この小委員会は、産業技術の歴史に関する取り組みの一環であって、平成5年の6月末まで、戦後技術史調査小委員会(小委員長 田畑新太郎氏)が活動していましたが、初期の目的を遂げたので解散しました。

活動状況は以上のようなのですが、育成活動の効果は会員諸氏が行う日々の活動に負うところが少なくありません。この機会を利用してご協力をお願いいたします。

(平成5年7月7日受付)